

専念寺通信

二月号 (NO. 138)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>

1月下旬から厳しい寒さがつづいています。東京に雪も降りました。東北地方は豪雪で、被災地にも大雪が降りつづけ、仮設住宅の皆さんがたいへんな日々を送っています。春の訪れが待たれる如月です。

☆立春

2月3日は節分です。節分は本来、季節のかわりめ、立春、立夏、立秋、立冬の前の日をいいます。せちぶん、と呼ばれていました。いまでは立春の前日、2月3日ころだけがそう呼ばれます。鬼打ちの豆まきをしたり、ヒイラギの枝に鰯の頭をさしたものを戸口にはさんだりして邪気を払う習慣がありました。毎年、この日には、幼稚園、学校、神社や、家庭で、豆まきの風景が見られます。鬼になるのは、幼稚園や学校では先生、家庭ではお父さんでしょうか。年の数だけ豆を食べると、病気をせずに一年が過ごせると言われています。

そして、1日あとは立春、暦のうえでは春です。「春は名のみ・・・」と、唱歌にもあるように、まだまだ風は冷たく、春という実感はわき

ません。けれど、日の暮れるのが遅くなります。寺の門扉を閉めるのは毎日午後5時ですが、真っ暗だった冬と違い、まだ外はほの明るいのです。春は確実に近づいています。

☆ボランティアということ

震災のあと、いろいろなところで寄付の呼びかけをみかけました。駅を降りると募金箱を持った人たち、コンビニに入ると募金箱、この1年、さまざまな場所でさまざまな人が活

動していました。寄付というのは難しい一面を持っています。どこに寄付すれば確実に自分の思っている人に届くのか、よくわからない場合があるからです。寄付やボランティアと呼ばれる行為は、信頼関係がなければできません。寄付する側は、寄付をもとめる組



織を信頼しているからこそするのです。この大きな震災を経験して、直接被害に会わなかった人（私共も含めて）は、寄付する先をきちんと見分けなければならないと思いました。善意が無駄にならぬよう。また、寄付をよびかける人の中に、もし、100パーセントはつきりとその用途を説明できない人、組織があるなら猛省をうながします。私たちは何とかして、これからもずっと被災地を支援しつづけようではありませんか。そのためには、自分の支援が、望んだ場所に必ず届く方法をそれぞれが良く見極めましょう。これから、震災がらみの清廉潔白とはいえないビジネスが出てくることと思います。厳しい目で見ましょう。身体の元気な人は、何とか時間を作って現地へ行きましょう。行って自分の目で見たことを友人、知人に知らせましょう。行った先で直接現地のどなたかと話し、ネットワークを作りましょう。必要なものを必要な人へ手渡す第一歩です。あなた自身が行って、見たことなら、確実です。ひとりひとりができることをして、それをつないでいけば、大きな組織に負けない、より良いことができると信じています。

動物の供養塔ができました。墓碑の文字は梵字で智慧の「慧」を意味します。ニンゲンは動物より本当に賢いのだろうか、という問いを込めてつけました。お待ち頂いていた檀家さま、順にご連絡させて頂いております。また、お問い合わせなど、どうぞいつでもお電話ください。右の写真は手縫いの雑巾です。専念寺の「専」の文字を入れました。ご法事の折りに使っていただいています。

まだまだ寒さが続きます。皆さまどうぞご自愛くださいませよう。 平成24年2月1日 大黒

